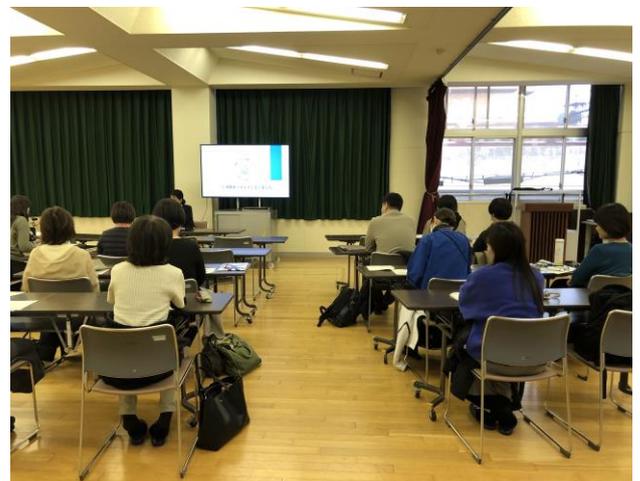


実施日：2024年12月4日

12月研究テーマ：非行や問題行動を起こす背景や児童生徒の気持ちをもとに、理解と支援について具体的な事例から学ぶ。



12月研究会の達成目標：少年鑑別所の役割や入所する子どもたちの特徴などを聞き、心理的背景や環境要因などを踏まえ、非行のあった子どもたちの心の理解に活かす。発達傾向や認知機能の弱さなどの共通点などを踏まえ学校生活の指導や助言に活かすことができるようにする。

活動内容

・少年鑑別所の役割を知る

少年鑑別所の役割には、大きく、鑑別、看護処遇、地域援助などがある。多様な調査方法により情報収集や分析を行う。面接や行動観察、医学的診察など特徴や状況をつかむ。少年非行は減少傾向にあり、全国の少年鑑別所入所者の推移も下がっている。

・入所する子どもたちの特徴を知る

令和5年では窃盗、傷害が大きく占めている。精神障害を有する入所者の割合（知的障がい、発達障がい含む）が全国的にも伸びているので、個別の発達を踏まえた上での児童に対する指導が必要となってくる。また、被虐待経験がある児童数も男子32%、女子43%となっており、現場の教員や地域の連携など重要になってくる。最近の非行の傾向では、集団から少人数、単独に移行してきている。対人関係やコミュニケーションの取り方の変化から、特殊詐欺への加担、薬物乱用など多岐にわたる。心理的背景として、認められたい、よりどころがほしい、やりたいことがわからないなど、モラトリアムを含む内容も見られた。

いじめの被害、自信を回復するためなど内的要因が表面的動機よりも強く行動に影響する。前述したように認知機能の弱さや感情統制の弱さ、自己イメージの悪さ、対人スキルの乏しさなど、社会から見ると困った子ども、少年の視点に立つと、うまくいかず困っている子どもであることを理解している必要がある。

今後の活動 講演内容予定

次回：1/15（水） 定例会

15:00～ 克明小学校 かがやき校舎 2F 音楽室

「児童心理：今年度のまとめ、2月の応用行動分析に伴事例検討の情報共有と研究員による3月発表の考察」

2月 「事例検討」

などを予定しています